

ま ち の ね

「まちなね」って？

地域を支える人たちの声や足音、
まちづくりの音をお届けする
活動レポートとして、
「こうべソーシャルマガジン
まちなね」は生まれました。

ま
ち
の
音
が

聞
こ
え
て
く
る
。

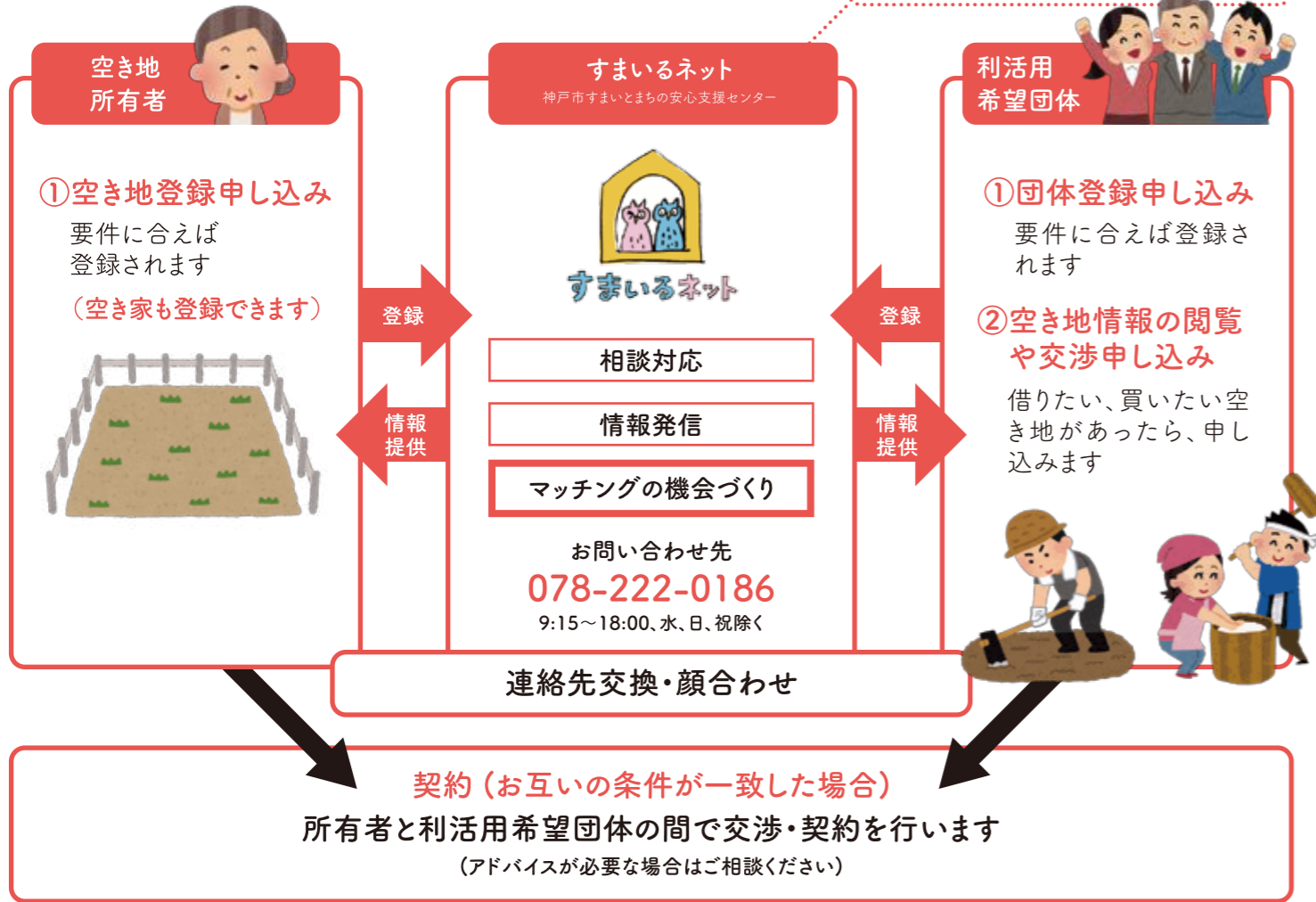
もくじ P.1-2 空き家・空き地 地域利用バンク
空き地地域利用事業補助金
P.3 活動人めぐり!

P.4 協働と参画のプラットフォーム
P.5-6 平成30年度各助成金採択団体の紹介

神戸市が空き地の活用を応援します！

10月から地域活動や交流拠点となる場所を探している地域団体と、市内にある当面使う予定のない空き地等の所有者との橋渡しをする「空き家・空き地 地域利用バンク」と地域活用を補助する「空き地地域利用事業補助金」が始まりました！

空き家・空き地 地域利用バンク



WEBサイトに空き地や利活用団体の登録情報の一部を掲載し発信します
※掲載内容は事前にご相談します

空き地地域利用事業補助金



空き地を地域活用する場合に神戸市が補助をします

空き地を変えたら、地域が変わった！

空き地を地域の活動拠点として活用されている事例を紹介します。以下の3地区では、神戸市の「まちなか防災空地事業」によって整備し、まちの防災性向上や地域のコミュニティづくりに役立っています。

垂水区泉が丘

泉が丘自治会：中谷 美代子さん、野川 悦二さん

路地沿いの空き地は、さまざまな野菜や花のプランターが置かれ、にぎわいのある場所になっています。プランターには自分たちの食べたいものを植えていて、収穫を楽しみにしながら野菜が育つ様子を見えています。季節ごとのイベントも開かれており、春は花見やバーベキュー、夏はスイカ割りやそうめん流し、冬はもちつきが恒例になっています。そうめん流し用の竹を近隣の竹林からいただいたり、通りがかりの近所の方におにぎりなどのおすそわけをしたり、日頃から自然と人が集い、コミュニケーションが生まれる場になっています。



長田区駒ヶ林町

駒ヶ林町2丁目南部自治会：貝塚 和信さん、NPO法人 芸法：小國 陽佑さん

震災以降、約20年放置されていた場所を整備し、隅にお地藏さんがいることから「じぞう広場」と名付けました。準備には、アーティストの活動を支援するNPO法人 芸法も参加し、敷地の中央には、大きな黒板を設置しました。額に見立てた黄色い枠がついた黒板には、だれでも絵や文字を描くことができ、アートイベントで作家の表現場所になったり、大きなすごろくを楽しんだりすることもできます。さらに災害時における住民の伝言板になることも想定しています。駒ヶ林地区では、この空き地に端を発して、3箇所の広場で黒板が設置されました。昨年開催されたアートイベント「下町芸術祭」では、地域を舞台に3つの黒板を関連させた作品が制作され、この場所のさらなる可能性を感じました。



兵庫区菊水町

菊水町10丁目自治会：大原 昭弘さん、高橋 豊さん、藤定 喜多枝さん

地域の人が通いやすい菜園として空き地を活用しており、スイカを植えたことから「スイカ広場」と名付けました。収穫時に、チラシを配り、「スイカ祭り」を開催したところ、約180人も人が訪れ、防災空地に入りきらないほど盛況でした。この地域は戦前からの家が多く、お年寄りが多く暮らしています。顔を知っているだけで、いざというときに素早い対応や助け合いができますし、普段から「顔見いへんけど、どないしたんかなあ……」と気遣い合える関係に。スイカ祭りのほか、菜園で収穫したものを近所におすそわけすることもあり、防災空地は、顔の見える関係づくりから始まる地域の見守りに一役買っています。



活動人めぐり!

よりよいわがまちのために奮闘する「活動人(かつどうびと)」にインタビューする「活動人めぐり!」。まちづくり協議会やNPOなどで活躍する活動人に会いに行き、いきいきとした神戸のまちを支える活動やその思いを伺います。

まちなか防災空地の取り組み

灘中央市場が挑戦する、

灘区の灘中央市場が取り組んでいるまちなか防災空地の整備。今回は灘中央市場協同組合の皆さまにお話を伺いました。

まず、灘中央市場の紹介をお願いします。
歴史は古くて、創立は大正12年。青果店と鮮魚店が多く、三代四代と続く店もあるね。スーパーと違って対面販売だから、おしゃべりを楽しむ顔なじみのお客さんが多いよ。

灘中央市場ならではの特徴はありますか?
市場という、まっすぐに伸びる商店街のようなイメージを持っている人が多いかもしれないけれど、ここは東西南北に道が入り組んでいる部分があるんだ。それと、市場で掘った井戸の水を各店舗に配給しているのも珍しいポイントだね。

まちなか防災空地に取り組むことになったきっかけを教えてください。
去年の夏、強い台風の被害を受け、屋根のトタンが飛ぶなど、危険な状態になった建物があったんだよ。明石で市場の火災もあったし、防災について考えさせられた年だった。そういったタイミングで、神戸市のまちなか防災空地事業^{*1}を知り、我々のニーズに合致したことがきっかけかな。

空き地の本格運営の前に、プレイベントを開催されたそうですが、どのようなことをされたのでしょうか?

暑さをしのげるタープを吊るしたり、卓球を楽しんだり、空き地の使い方はさまざまだと感じたよ。たくさんの方が来てくれてうれしかったね。線香花火大会も楽しかった。



「こうべまちづくり学校」の講座で、空地の活用について話し合いをされたそうですね。

講座の参加者には市場のお客さんがいて、たくさん発言して下さったんだ。市場の関係者以外で、一緒に盛り上げてもらえることはとてもありがたい。それに、この講座がきっかけでSNSやメディアで話題になって、市場が注目されたこともうれしいよ。

本格整備に向けて展望を教えてください。

これから話し合いを重ねて、管理や運営、場所づくりをはじめ、延焼対策や支援物資の保管など、防災の観点での備えについても考えていこう。「市場のなかの防災空地」は前例が無いそうなので、しっかり整備してアピールしていきたいね。子どもが集まれる場所づくりなどで、親と子どもが市場に来られるようになればとも考えているところなんだ。



藤原 明さん 理事 八百屋
大谷 雅也さん 副理事長 魚屋
森本 元気さん まちなか防災空地企画部長 精肉店
岸野 一洋さん 副理事長 和菓子屋
武長 一仁さん 企画部長 漬物など発酵食品の店

^{*1} まちなか防災空地事業 密集市街地を対象にしている神戸市の事業。災害時に延焼等を防ぐために、建物除却や空地の整備費を補助する。

新しくなった「協働と参画のプラットフォーム」をご活用ください!

JR三ノ宮駅近く サンパル2Fに 移転しました!



協働と参画のプラットフォームでできること・していること

さまざまな組織が協働するプロジェクトのイベントや打ち合わせに気軽にご利用ください。電源、Wi-Fi、レンタルPCを無料でご利用いただけます。たとえば、NPO/NGOと企業の協働イベント、行政とNGO

のプロジェクトの打ち合わせなど、協働と参画の場として幅広く利用されています。また、地域社会課題にまつわるテーマのセミナーやワークショップも実施しています。

「協働と参画のプラットフォーム」の利用の実例

1 貸会議室

NPOや地域団体の総会や活動ミーティング、共催イベントの会場として利用されています。机や椅子は自由に動かすことができます。ホワイトボードやワークショップグッズもご用意しています。



2 セミナー

SDGs^{*}で取り上げられている社会課題の多くは、NPOやNGOが取り組んできた課題でもあります。社会課題に取り組む人をさまざまな業種から講師として招き、セミナーを定期的開催しています。



^{*}SDGsとは? 国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2016年から2030年までの17のゴールからなる国際目標

3 イベント

「協働と参画」のアイデアや気持ちを具体化するための「対話の場」として理想の未来について参加者が語り合うワークショップを月に1回実施しています。



VOICE

セミナーや対話の場を通して、参加された方が興味を抱いていることや得意としていることから、神戸のまちで「協働と参画」が生まれるきっかけづくりをお手伝いしています。すでにセミナーやイベントに参加者同士でさまざまな企画が生まれています。常連になっている方も多数! ぜひ一度「ぶらっと」お越しください!

協働と参画のプラットフォーム コーディネーター 坪田 卓巳さん



協働と参画のプラットフォーム

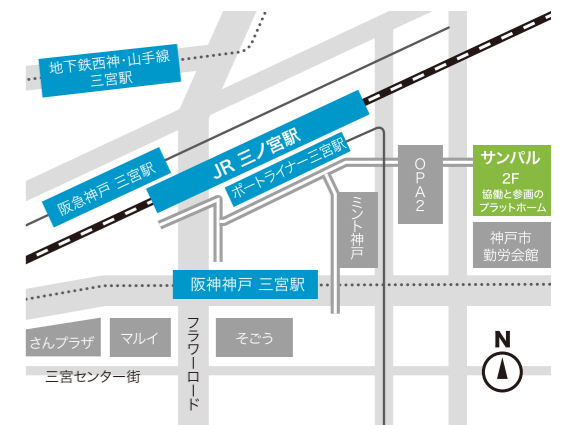
神戸市中央区雲井通5丁目3-1 サンパル2階
開館時間 / 火曜日～日曜日 14:00～20:30 定休日 / 月、祝日、年末年始

<https://platform.city.kobe.lg.jp>

協働と参画のプラットフォーム

検索

☎ 078-241-9797 ✉ plat@123kobe.com
(神戸ソーシャルキャンパスにつながります)



各線 三宮駅より東へ 徒歩約3分

「協働と参画」推進助成とは

行政だけでは気づかない、解決できない地域課題を、市民の皆さんのアイデアを活かして、市民と行政が協働して取り組む活動を支援する助成制度です。

NPO法人 須磨ユニバーサルビーチプロジェクト

「協働と参画」推進助成(一般助成)採択団体

須磨海岸を世界一のユニバーサルビーチに
～障がい者のレジャーや活動をサポート～

須磨ユニバーサルビーチプロジェクトでは、『「できない」を『できた!』に変える』をテーマに、須磨海岸などで障がい者がレジャーを楽しめる環境づくりを推進しています。
須磨海岸では、ビーチマットを敷くことで車椅子の利用者が波打ち際まで行けるようにしたり、水陸両用アウトドア車椅子で障がい者と家族が海水浴を一緒に楽しめるようにしたりしてきました。
平成30年度は、新たな取り組みとして、障がい者用のシャワーやトイレを完備する施設「SUMAくんハウス」をオープンし、夏季の運営を行いました。
今後は、神戸市や地域団体、地元企業と協力し、更なる須磨海岸のユニバーサルビーチ化を進めるとともに、登山や雪山でのスキー、農業など新たな活動範囲にチャレンジしていきます。



VOICE 理事長 木戸 俊介さん
常設が難しいビーチマットを敷くには、多くの人手が必要になりますが、約2年で延べ200人以上の仲間が集まってくれました。簡単なプロジェクトだと、ここまで協力を得られなかったかもしれません。障がいも同じで、短所に見えることが考え方によって長所になり得ます。そんなメッセージを活動を通じて伝えていければ幸いです。

TEL 080-1181-7002 Eメール rewalkproject2016@gmail.com WEBサイト https://peraichi.com/landing_pages/view/sumamap

新長田アートcommons実行委員会

「協働と参画」推進助成(テーマ別助成)採択団体

神戸の下町を舞台に、地域らしさを
未来へ引き継ぐ2カ年プロジェクトが始動

地域の中で脈々と受け継がれてきた手仕事や慣習など、地域の文化的遺伝子“MEME(ミーム)”を未来へと引き継ぐ2カ年プロジェクト「KOBE MEME」が始まりました。
昨今、長田区・兵庫区南部では若手のクリエイターの移住が増加する一方、地域では空地や空家が増加しています。KOBE MEMEでは、若手クリエイターが地域の人々と交流しながら、事業として成立する空地・空家活用プロジェクトを構想・実践していきます。
新長田アートcommons実行委員会が主催し、DANCE BOX、DOR、r3、はっぴーの家など地域の多様な実践者が企画協力しています。
参加者は、9月から下町芸術祭と連携した連続講座を通じて多角的な視点から地域特性を学びます。同時に、グループごとにリサーチを行い、事業プランを構想。最終的には、3月に公開プレゼンテーションを行います。



VOICE 事務局長 山口 葉亜奈さん
KOBE MEMEでは、クリエイターと地域の人と一緒に、これまで気付いていなかったような地域が持つ魅力を掘り起こしていきます。
町の魅力を再発見するとともに、空き家や防災空地などの地域資源を活かした持続的な活動が地域から立ち上がることを目指しています。

TEL 078-647-7430 Eメール shinnagata.artcommons@gmail.com WEBサイト <https://shitamachikobe.jp/kobememe/>

ソーシャルビジネス推進助成とは

社会課題の解決を目的とした活動に取り組む方々を応援する制度です。

NPO法人 二求の塾

ソーシャルビジネス推進助成(準備創業期)採択団体

不登校は生き方の一つ
～支援ポータルサイトの立ち上げ～

二求の塾(にぐのじゅく)は、不登校を経験して元気を取り戻した20代の若者7名が平成27年9月に立ち上げました。阪急御影駅近くでフリースクールを運営しています。
塾生は広く阪神間から来ており、約35名が在籍、15名ほどが毎日通っています。平成29年度は、すべてのプログラムに延べ4,160名が参加しました。
今回の助成に採択され、不登校で悩む学生や家族が情報共有できるポータルサイトを開設しました。少子化が進む一方、不登校生の数はこの数年間横ばいですが、彼らに対するサポートは環境によってマチマチです。そこで、ポータルサイトでの情報発信を通じて、本人や周りの方々に支援していきたいと考えています。また、ポータルサイトには各地のフリースクールを掲載する予定で、フリースクールの社会的認知も広げていきます。



VOICE 理事長 佐藤 壮さん
二求の塾のスタッフはわたしをはじめ、全員が不登校経験者です。当事者だからわかる気持ちを大切にしながら、一人ひとりにあったサポートを塾生たち自身と一緒に考えます。
不登校は生き方の一つであり、決して悪いことではありません。環境が変われば人は変わります!

TEL 078-855-2612 Eメール support@nigunojuku.jp WEBサイト <https://nigunojuku.jp/> ポータルサイト <https://freeschool.or.jp/>

一般社団法人 すまいの未来研究機構

ソーシャルビジネス推進助成(発展期)採択団体

専門の建築士が中古住宅を
診断する「フェニーチェパック」

平成30年4月から中古住宅を売買するときに、住宅診断(インスペクション)について不動産業者が買主や売主に説明することが義務化されました。中古住宅を売買するときには、買主も売主も建物の劣化状況を不安に感じるものです。当機構では、この住宅診断に対応したフェニーチェパックを提供しています。
講習を受けて認定登録された住宅診断専門の建築士が50項目以上の調査を行い、報告書にまとめるサービスです。
兵庫既存住宅活性協議会の事業を引き継いで運営されている当機構は、全日本不動産協会兵庫県本部、兵庫県建築士事務所協会、兵庫県不動産鑑定士協会とも連携協定を締結しています。平成29年度には「@IEKATSU in 明石」、「@IEKATSU in 川西」という家を使った地域活性化をするための交流イベントも開催しました。



VOICE 代表理事 才本 謙二さん
住宅を持っていたり、もしくはこれから所有したいと思っている方は、中古住宅がどのような状況なのか気になると思います。建物が傾いていないのか、雨漏りはないのか……。その物件を一度専門家の観点から見てみようというのが「フェニーチェパック」というサービスです。ぜひお気軽にご相談ください。

TEL 078-974-1737 Eメール info@sumaien.jp WEBサイト <https://sumaien.jp/>

自治会・管理組合の皆さまへ

集会所の工事に関する 補助金制度をご存知ですか？

集会施設をお持ちの
自治会・管理組合向け
※空き地・空き家の利活用も対象

神戸市には住民自治組織が所有している集会所の新築・買収・増築・改築・修繕・バリアフリー化の工事を行う場合に一部費用を支援する「地域集会所新築等補助制度」があります。お申し込みをご検討される場合は、以下について皆さんでよく話し合って準備や計画を進めておきましょう。

- ①整備箇所や範囲、内容を検討する
- ②業者の見積書で概算経費を把握する
- ③総会で工事実施に際しての資金繰りや補助金の申請について承認を得る

補助金活用を検討される方は、各区まちづくり(推進)課もしくは市民協働課までご相談ください。

平成31年度の申込期間(予定)：平成31年3月～5月中旬

お問い合わせ 神戸市市民参画推進局市民協働課 TEL:078-322-6492(平日8:45～17:30)

補助の種類及び補助金額(予定)

種別	補助率	限度額
1 新築・買収 ※1	補助対象経費の2/3以内	1,200万円
2 増築・改築	補助対象経費の1/2以内	600万円
3 修繕	補助対象経費の1/2以内	300万円
4 バリアフリー化 ※2	補助対象経費の3/4以内	225万円

※1 加入世帯が1,000世帯以上、延床面積150㎡以上の集会施設の場合、補助限度額は1,500万円

※2 増築・改築・修繕と併用可



コミュニティ相談センターが移転します 地域活動のお悩み相談の場「コミュニティ相談センター」が 下記の通り移転いたします。(予定)

移転日 平成31年4月1日 ※平成31年3月中旬～平成31年3月31日まで引越作業のため閉鎖いたします。

移転場所 移転前 神戸市中央区元町通4-2-14 こうべまちづくり会館4階

移転先 神戸市長田区二葉町7-1-18 ふたば学舎1階

コミュニティ相談センターは下記の事業を行っています

- 地域コミュニティの運営や活動に関する相談
- 自治会運営の経験豊かなコミュニティ・インストラクターの派遣
- 図書コーナー(地域活動に関する書籍や各地域の広報紙など)

コミュニティ相談センター TEL&FAX : 078-361-4565 ※平成31年3月中旬まで
(9:30～17:30・水曜日を除く平日)

お問い合わせ・発行 神戸市市民参画推進局市民協働課 TEL:078-322-6492(平日8:45～17:30)

